

【主題名】人間の尊さ・大切さを考える 内容項目 「D-(19) 生命の尊さ」

【教材名】人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考えるー (東京書籍 新しい道徳3)

<あらすじ>意識がなく生命維持装置で生きているカレンさんの延命治療を止めるよう両親は申し出るが、主治医と裁判所からは許可が出なかった。その後、最高裁で許可が出るが、装置を外してから約10年間生き続けたという尊厳死を扱った教材。

【ねらい】

- 内容項目の理解
生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重するという道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
生命の尊さについては、理解できるようになっているが、尊厳死を含む生命倫理について考える機会ほとんどない。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

生命倫理について様々な立場から考え、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 本時の教材に興味・関心を持つ。</p> <p>・尊厳死についての日本と海外の解釈や法律の違い等について知る。</p> <p>2 課題をつかむ</p> <p style="text-align: center;">生命倫理について考えよう</p>	導入の工夫
展開	<p>3 資料の範読を聞き、内容をつかむ。</p> <p>○ カレンさんの両親は、なぜ、医療措置を打ち切るよう求めたのでしょうか。</p> <p>○ 主治医が反対した理由は、なぜでしょう。</p> <p>4 グループで意見を交流する。</p> <p>○ あなたは、どうすべきだと思いますか。</p> <p>5 資料に戻り、考えを深める。</p> <p>◎ 生命維持装置を外した後、カレンさんは何を考えていたのでしょうか。</p>	展開の工夫 多面的・多角的
終末	<p>6 命についての理解を深める。</p> <p>○ 生命を考える上で大切なことは何でしょうか。</p> <p>・「厚生労働省のアンケート」を紹介する。</p>	終末の工夫

【板書計画】

第〇 回道徳

生命倫理について考えよう

カレン・クインラン事件

カレンさんの両親

- ・チューブにつながれた娘を見ていられない。
- ・苦しみから解放させたい。
- ・意思もなく生きるのは人間の生き方ではない。

止めてほしい

← 医療拒否を許可

州最高裁







・本人に医療を拒否する権利がある。

止めてほしい

← 認められない

主治医 州高等裁

- ・意識が戻るかも。
- ・意思はなくても生きていはず。
- ・医師は助けるのが仕事。
- ・法律の問題がある。

 <ul style="list-style-type: none"> ・両親の考えは分かるが命は奪えない。 ・両親の意見を尊重すべき。 ・辛い思いをしてほしくない ・痛い思いをしてほしくない。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・医者の方の意見も分かるが、家族の意見を尊重したい。 ・家族間の問題に口出しできない。 ・最終判断は家族。 ・家族の意見を受け止めたい。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・自力で生きさせてあげたい。 ・生きてほしいが両親がそう望むなら。 ・楽になるならそうしてあげたい。 ・助かる希望が少ないなら仕方ない。
 <ul style="list-style-type: none"> ・人の命は奪えないが、苦しみがら生きるのは辛い。 ・本人の意思ではないので悩む。 ・辛そうなら死なせてあげればいいのか？ ・本人の意思が分からない。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・長く過ごせるなら、医療措置をすべき。 ・長生きさせてあげたい。 ・治る可能性もあるけど、早く楽にしてあげたい。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・楽にさせたい方がいい。 ・楽にさせたいが、それよりも長生きしてほしい。 ・本人の意思が分からないので迷う。 ・長生きしたいのでできるだけことをしてほしい。

生命を考える上で大切なことは？

- ・自分や家族の命について自分の考えを持ち、周りの考えも尊重する。
- ・何が一番幸せなのか、みんなで考える。

【評価】

生命倫理の理解を基に、自他の生命の尊重について、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。